【場所・面積】静岡県富士市、面積：1.01 ha

【管理目的】

富士市田子の浦地区の原風景の再生を目指して、2年間の事前調査を行い樹種を選定し、
高低差や水辺のある複雑な地形を作りこみ森を育ててきたサイト（2007年10月開所）

【サイト概要】

現在は自然林、里山林、草地、湿地、田、流れ・池それぞれに特徴的な植生が再生し、
昆虫類や動物たちも自然に入り込み、生物多様性を育むエコトープに成長。
「多様な自然の創出とその共有による地域への貢献」をテーマとし、
「地域環境の保全・発展」「人間と自然の接点を考慮した自然環境の整備」
「地域性の忠実な再現」をコンセプトに活動中。

【土地利用の変遷】

従来は、旭化成富士支社の工場用地として利用
2007年に更地状態の工場跡地に造成を行い、現在の人工森林を創設



2006年工場跡地（更地）の状態　2007年 あさひ・いのちの森初年度　2017年 あさひ・いのちの森10年目

【サイト周辺の環境】

旭化成富士支社敷地内であり、現在も施設周囲は工場及び研究施設が隣接。

【アピールポイント】

工場跡地の更地から創設した完全な人工森林であるが、適正管理を行ってきた結果、
当初計画した通りの地域由来の在来植生による里山再生を実現。
良好な里山の復元により、現在では、希少種の植生や昆虫類などを確認できるまでの、
健全なビオトープとして機能している

●現在の状況





生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

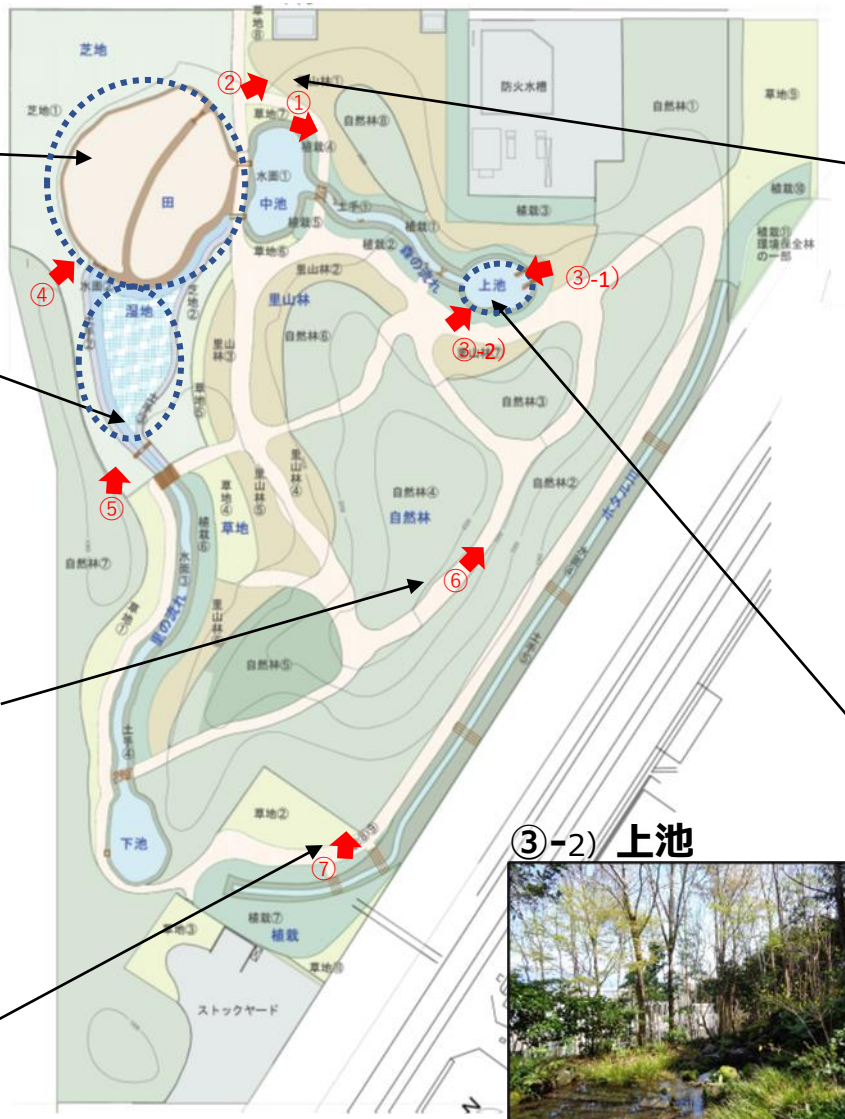
●自然林・里山林・草地・湿地等から成るモザイク的な環境

④水田



⑤湿地





①里山林（林内）



②里山林（外観）



●希少種の植物・昆虫の生息を確認
（以下一例）



クビボソコガシラミズムシ（平成22年夏季）



コガムシ（平成27年夏季）



オニナルコスゲ
（2019年まで確認）



ナヨナヨワスレナグサ

⑥自然林（林内）



⑦自然林（外観）



③-1）上池



③-2）上池

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【サイトの管理計画】

・植生管理基準に則り、年間を通した以下の管理を実施

- 植生エリア毎に設定した定期メンテナンス（除草・伐採）

（※下表は植生管理基準より抜粋）

管理項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自然林・里山林	通常は不要											
芝地	※	※	●	●	●		●					●
草地	※	※	●		●		●					
土手・流れ付近	※	※	●	●	●		●					●
池・流れ	※	※					◎					
湿地	常葉大学管理											
田んぼ	富士支社管理（但し、外来種などの雑草類は即時撤去）											

※：ホタルへ配慮した管理とする
◎：中池と下池の周囲のスゲ類は、年1回（秋：10月目安）は地際から刈り取る。

- 巡回による点検（1～2週間に1回）
- ホタル幼虫の放流及びモニタリング（幼虫／成虫個体数）
- 田んぼの管理（一般的な水田管理を踏襲）

【地域社会との連携】

・常葉大学との産学共同研究として、以下の3つのテーマを実施
（実験と合わせて管理を継続中）

- 自然林再生区の種多様化実験
- 里山林再生区の種多様化実験
- 湿地林の植生管理手法の検討

モニタリング計画の内容

【モニタリング計画・実施時期及び頻度】

1）自然林・里山林・湿地の植生調査（通年：産学共同研究）
2）毎木調査（不定期：最新は2022年度）
3）昆虫類調査（5年毎）
4）鳥類調査（5年毎）を実施
5）その他、定置枠植生調査や植物相調査、全域植生調査も実施

【 実　施　体　制 】（2023年現在）

1）植生調査：常葉大学 浅見研究室へ依頼
2）毎木調査：常葉大学 浅見研究室へ依頼
3）昆虫類調査：常葉大学 浅見研究室及び加須屋先生へ依頼
4）鳥類調査：静環センターへ依頼
5）その他調査：植生関係は常葉大学へ依頼

※過去の調査関係
・2019年までの植生調査等は国際生態学センターへ依頼
・2015年までの昆虫類調査は静環センターへ依頼

●その他
・ホタル幼虫の人工飼育等は旭化成富士支社にて実施
・田んぼ管理は、旭化成富士支社にて実施